

令和7年度 千葉県立野田看護専門学校 学校関係者評価実施報告

1. 実施年月日

令和8年2月25日（水）14時30分から16時

2. 学校関係者評価会議 外部委員 6名

1	近隣教育機関	1名
2	近隣保健医療施設（実習施設）	2名
3	非常勤講師	1名
4	看護職能団体	1名
5	卒業生代表	1名

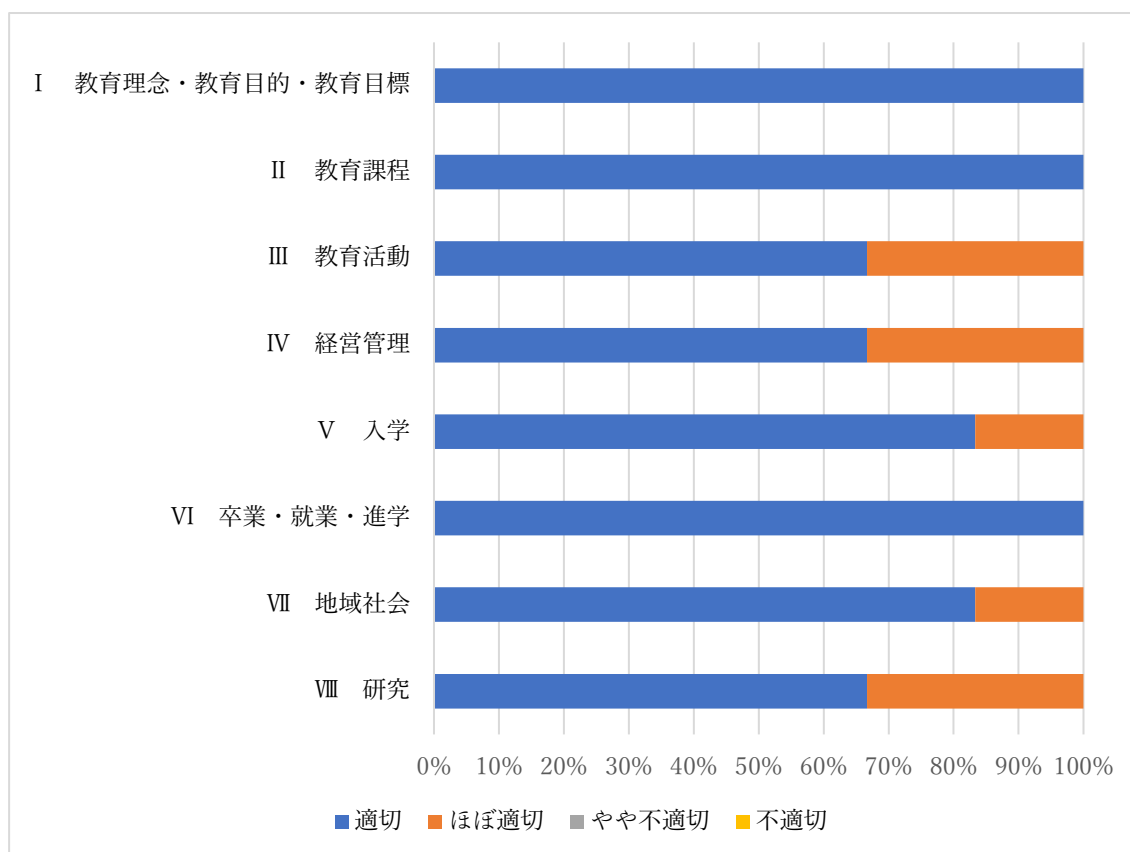
3. 実施内容

自己点検評価結果の客観性・透明性を高めるために、外部委員には、自己点検評価結果の妥当性について4段階（適切、ほぼ適切、やや不適切、不適切）で評価を依頼した。また、自己点検評価以外の取り組みについて意見をもらった。

4. 結果

1) 総合評価

自己点検評価の8つの大項目ごとの評価は、適切あるいはほぼ適切との評価であった。また、自己点検評価以外の取り組みについても好意的評価であった。



2) 自己点検評価項目に対する評価

評価項目	評価結果	外部委員の意見（概要）
I 教育理念 教育目的 教育目標	適切 6 名	<ul style="list-style-type: none"> ■教育理念や目的・目標は卒業後に学生が認識する場合もあると考える。 ■今後も折に触れ、アナウンスやフィードバックを重ねることで学生に根付き、自ら考え行動できる看護師の育成に繋げてほしい。
II 教育課程	適切 6 名	<ul style="list-style-type: none"> ■実習環境や指導体制に苦労はあるかと思うが、ブラッシュアップしながらより良い教育につなげてもらいたい。 ■権利/尊重のバランスは非常に難しいと感じ、指導において同等の悩みがある。 ■卒後も支援する体制があり、就職先の施設としても相談したり直ぐに対応してもらえるので心強い。
III 教育活動	適切 4 名 ほぼ適切 2 名	<ul style="list-style-type: none"> ■教員間での情報共有、学生への個別指導、外部講師の調整など、限られた人員の中で尽力している。一方で、それらが教職員の負担増になってしまっている状況が懸念される。 ■5年連続国家試験合格 100%というのは誇れることだと思う。教職員の指導・支援が手厚いことを「広報戦略」の一環としてアピールすると良い。
IV 経営管理	適切 4 名 ほぼ適切 2 名	<ul style="list-style-type: none"> ■施設設備面の老朽化や新しい機材の入れ替えは予算があることなので困難ではあるが、少しずつ計画的に進めるとともに、安全面に留意して都度対応してほしい。 ■教職員の人員不足は喫緊の課題であり、未来の看護師育成のためにも教職員の充足が図れるよう期待する。 ■広報について、ホームページの改善が必要だと考える。県立でもあり制約があるのは理解するが、代替のポスター、チラシ、YouTube、SNS 等の活用など、学校の実績や雰囲気伝わるよう学生も交えて創意工夫をしながら検討してほしい。 ■システムについては可能な限り分かりやすさ、使いやすさを考慮してシステム化することが効果を上げるには重要である。
V 入学	適切 5 名 ほぼ適切 1 名	<ul style="list-style-type: none"> ■入学生確保が、年々難しくなる中、様々な工夫をして対応している。 ■野田看護専門学校存在意義や強みについて、学生や実習施設の意見も交えて多角的に分析し発信することで、入学生の増加につなげてほしい。 ■2040 年をふまえ、定員数の妥当性を検討し、質の維持、向上を検討する必要がある。
VI 卒業 就業 進学	適切 6 名	<ul style="list-style-type: none"> ■学生の特徴も多岐に渡り個々の対応が困難な中、教職員が尽力し第一看護学科の県内就職率 100%は素晴らしい。 ■卒後の入職者を見ていると、教員が大事に支援していることを感じる。
VII 地域社会	適切 5 名 ほぼ適切 1 名	<ul style="list-style-type: none"> ■新たな取り組み（オレンジカフェ）を実施し、地域交流を通して学生への教育の幅が広がった。今後は、次世代の小・中学生をメインターゲットにした企画など、更なる展開を期待する。 ■現在取り組んでいるオレンジカフェ若葉やボランティア活動を継続してほしい。
VIII 研究	適切 4 名 ほぼ適切 2 名	<ul style="list-style-type: none"> ■人員不足の解消は難しい問題ではあるが、教職員の業務負担が軽減され、自己研鑽できる環境が作れることを期待する。 ■自己研鑽や研究活動の機会を増やすことができると良い。

3) 授業評価に対する評価

- 両学科とも学生の学習目標は達成されており、有意義な授業・実習を提供できている。
- 講師も自身の講義がどのような評価を受けているのか、良い面も悪い面も含め知ることによって自身を省察し、より良い授業内容に改善していけると思うので、非常勤講師にもフィードバックがあると良い。
- 臨地実習の設問内容は具体的でイメージしやすいのに比べ、講義の設問内容は分かり難いと感じた。学生が理解しやすい設問内容を検討する必要がある。
- 授業評価アンケートの回収率を上げるための検討が必要である。
 - ・授業評価による学生へのメリットについて具体例を挙げながらアナウンスを強化
 - ・アンケートの実施時期の検討（終講時・授業時間内の実施）
 - ・環境整備（Wi-Fi 整備・二次元コードの使用）

4) 卒業生支援に対する評価

- ホームカミングディは、心身の疲労を癒し、就業継続に繋がる貴重な機会であり、良い共有の場にもなっており、開催を継続してほしい。
- 現実とのギャップを知り、自己学習の大変さを感じ、不安やプレッシャーが強くなり始める時期にホームカミングディを開催することは大変有意義だと思う。教職員の負担にならない範囲で、年次にかかわらず複数回実施できたら効果的だと思う。
- アンケートを用いて「ホームカミングディ」の適切な開催時期を決めているのは良い取組だと思う。
- 卒業後の相談は、気軽に相談できる環境であり、支援体制は整えられている。

5) ハラスメント防止対策に対する評価

- 昨年の意識調査の経験から、ハラスメントの具体例や「誹謗中傷をしない」等の注意点を追記するなど、ブラッシュアップした調査となっていた。より良い教育現場となることを期待する。
- 取り組みが難しいテーマだが、教職員・学生のハラスメントについての共通認識を醸成したうえでハラスメントが起きないように取り組んでほしい。
- カウンセラー等、教職員とは一線を画した第三者の意見が聞けるような立場での相談窓口の拡充が必要だと考える。ポスターの掲示や配布も継続してほしい。
- 教員の研修だけでなく、学生についても、自身の発言や態度、アンケートの回答が適切であるのか振り返る機会や、逆ハラスメントやカスハラなど学習する機会を設ける必要がある。
- アンケート結果で先生方が疲弊することの無いよう職員の支援もぜひお願いしたい。
- 将来医療職として、人を大切にすることがどういう事なのか、患者への看護に加えチーム医療の一員として認められるような人への成長につながるよう、教員の反省だけでなく、健全な医療職者を育成する観点から学生への教育をお願いしたい。

6) その他の意見

- 幼いころより野田で育った地元愛の強い学生が多いのも強みだと思う。伝統ある看護専門学校が継続できるように応援したい。
- 第二看護学科の学生確保は、厳しい状況だが、准看護師の進学コースは県立の養成施設として重要な役割であると思う。
- 学校独自のホームページを作ることができないのは残念だ。許可を得たうえで「TikTok」や「インスタグラム」等のSNSも活用し、「国家資格合格 100%」「教職員の手厚い指導・支援」「安い学費」などアピールできる素材で頑張してほしい。

5. 今後に向けて

外部委員からの指摘や意見を参考に、次年度の教育活動と学校運営に取り組み、学校運営全体の質の向上を図っていく。